

## 令和2年度 第1回安城市総合教育会議会議録【要約】

日 時 令和2年7月30日（木）午後2時40分  
場 所 教育センター2階 会議室  
出席者 市長 神谷 学  
教育委員会 杉山 春記 教育長  
加藤 滋伸 教育長職務代理者  
近藤倉生 委 員  
伊奈 希 委 員  
久恒美香 委 員

出席した職員 武智 仁 企画部長  
横山真澄 行革・政策監  
早川智光 教育振興部長  
宮川 守 生涯学習部長  
仲道雄介 企画政策課長  
長谷部朋也 総務課長  
稲留雄一 学校教育課長  
中屋敷俊幸 企画政策課課長補佐  
矢野裕二 学校教育課課長補佐  
沓名智和 企画政策課係長  
神谷勇毅 企画政策課主査  
中石七瀬 総務課主査  
西澤郁也 総務課主事補

傍 聴 者 なし  
開 会 午後2時40分  
日 程

### 第1 開会

### 第2 市民憲章の唱和

### 第3 あいさつ（要旨）

神谷市長：今年度は新型コロナウイルスの影響により、教育現場では3月から度重なる休校、また学校再開後も感染症対策に追われ、まさに前代未聞の大変な事態の中で、新年度を迎えた。

教育委員の皆様におかれては、このような状況の中、教育行政の重責を担っていただき、大変なご心配とご苦勞をかけているかと存ずる。この場をお借り

して改めまして感謝を申し上げたい。

さて、本日の議題は、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う、臨時休業時及び学校再開後の取り組みについて」。報告を聞いた後、皆様のご意見をお聞きしたい。

杉山教育長：市長には常日頃より、教育行政に関わって大変ご配慮いただいております、この場をお借りして改めてお礼を申し上げたい。

本日の議題である新型コロナウイルス感染症に関しては、3カ月間の休業期間中や、学校再開後においても、いつも市長には気にかけていただいた。

ただ、感染予防に最大限留意しながらの学校再開になった。さらに、通常ならば今は夏休み期間中だが、本年度は6週間の夏休みを2週間に短縮をしている。

そして、先週から何人もの児童生徒がPCR検査を受けており、幸いにも、全て陰性だったが、いつ休校になるのか全く予断を許さない状況である、

子どもも保護者も、そして教師も先が見通せない苛立ちがあるが、今日は様々な視点から意見交換されることを期待している。

#### 第4 議題

議題（1）新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う、臨時休業時及び、学校再開後の取り組みについて  
学校教育課長説明する。

神谷市長：教育委員の皆さまには、これまでに教育委員会定例会でご審議いただいているので、ぜひ一言ずつコメントをいただきたい。久恒委員から順によりしくお願いしたい。

久恒委員：たとえば、家庭訪問やアンケートなどを行っているが、実際には、家出や児童虐待があったり、DVがあったりということ把握できているのか。また、もしある場合は、どのように対応されたのか。

学習支援のヒントなどを作成していただけるのはありがたいが、先生たちが消毒作業などで仕事量が増えているのが現状である。先生たちも心が疲弊していると思うので、可能であれば先生方の心のケアや、サポートができるように考えていただきたい。

朝の読書時間なども組み合わせて授業時間を確保しているということだが、そういう時間を全て削ってしまうのではなく、残したまま授業時間を作り出していただけたらありがたい。

一人に一台端末を渡すことについて、機器は高価なものなので、機器を狙わ

れるなど犯罪に巻き込まれる可能性があり、不安に思う保護者の方もいると思う。また、機器が壊れることや、機器が体に与える影響などもあるかと思うので、そのようなところも考えていく必要がある。また、機器での勉強はよくて、テレビやゲームは長時間してはいけないというのは、矛盾がある気がするので、この点も考えていってほしい。

それから、家にWi-Fi環境のない人が公民館に行くことはいいと思うが、子どもが遅い時間まで外にいないように、公民館などでの指導が必要だと思う。そうした帰宅時間の指導の事や、町内会事務所などのもう少し身近なところにもWi-Fi環境を整えていただけるとありがたい。

神谷市長：教育委員会の考えを教えてください。

学校教育課長：家庭での時間が長く、DV等を心配されているとご意見をいただいた。この期間に限ってDVがあったということは報告を受けていないが、今後も十分に気をつけていきたい。子どもたちの栄養状態も非常に心配をしていた。給食がしばらくなかったため、栄養状態を特に見てほしいと十分に配慮をしたつもりである。

消毒作業による教員の疲弊等について、私も心配している。こういう時だからこそ仲間意識が高まっているように感じる。

学校のスクールサポーターにサポートしていただくことで、少しは補えるのではないかと思う。ゆっくり休暇を与えて、心のケアということも考えていく必要があるが、教員が孤立しないということを第1にして、特に若い先生が過度に疲弊しないように、学校で業務の分散をしていきたい。次に機器が壊れた場合は、保険等に加入をして保証ができるように検討を進めている。ただ、持ち帰りの犯罪等については、今後検討していく。

企画政策課長：Wi-Fi設置については、現時点では、最大で100台ほどを繋げるだけのWi-Fi環境であるという回答を得ている。しかし、教育コンテンツによっては、検索だけではなく、画像を伴うものもある。その際に十分な環境が発揮されるかというところはまだ検討をしていく必要がある。

神谷市長：先ほど、町内会事務所へのWi-Fi設置という話があったが、現状どうなのか。

企画政策課長：多くの町内会事務所は既にパソコンを用意していると思うので、個別のケーブルはあると認識をしている。それを各町内会事務所において、無線LAN化するとなると確認が必要で、さらに、子どもが訪れて使えるようにするためには、パスワードを入力しなければならないので、対応していくには時間がまだかかると思う。

神谷市長：現状の説明があったが、何かお気付きのことがあればお願いしたい。

久恒委員：子どもや先生の心のケアの対応をしていただきありがたい。先生同士

の結束が強まっているのはとてもいいと思う。

近藤委員：「なるべく学校に出てきなさい」「無理してでも出てきなさい」といった風潮があるが、体調がすぐれないときは必ず休むように積極的に指導した方がいいのではないかと思う。皆勤賞のために無理して登校したい生徒が多くいるのが現状である。アフターコロナの世界では、ぜひ、自分の心も体を大事にできるように配慮をしていただきたい。

次に、熱中症への対応のところで、首の後ろが隠れるような形状の帽子を取り入れたらもっと快適になるのではと思う。

学校教育課長：まず、1点目の子どもが心と体の健康を大切にできるような指導をすることはその通りだと思う。これをよい機会にして先生方と子どもたちに対して、十分に働きかけをしたい。

次に、首の後ろが隠れるような形状の帽子はクールキャップといわれるものかと思う。一部の学校では推奨をしているので、各学校に積極的に紹介をして広げていきたい。

加藤委員：子どもたちや先生たちがどのようにこれから対応すべきか、学習指導をすべきかを考えたときに、指導員の人たちが子ども向けと先生向けに作成していただいた資料をうまく使用していただけたらと思う。子どもはこれを使って学習ができているのか。

学校教育課長：直接調査はしていないが、体の動かし方のチェックカードを使用していると聞いている。ただ、学習については、学習意欲に差もあり、どの程度使用しているか調査はできていない。

加藤委員：特に若い先生たちに参考になるので、校内研修用など、資料を作成していただくことは必要だろうと思う。夏休みも短縮したとはいえ半日にして、授業時間数を確保はしているが、このような状況なので、全てを網羅するのではなく、基礎基本の重要な点を精選してやっていく形でもいいと思う。

キャッチを見ていたら、ニシュランガイドのニュースをやっていた。情報機器を導入することはマイナスなイメージもあるが、新しい工夫ができて、子どもたちも工夫をするので、その生きる力を生かしたり、伸ばしたりする絶好の機会、と考える姿勢も大切だと思う。

私は大学に籍を置いていて、先生たちに教育実習をお願いしている。前期では、72人中、当初は37人実施予定だったが、2人しか教育実習ができなかった。後は後期に移ったので、おそらく教育実習生を受け入れることは大変だと思う。実際に授業を行うのは控えて参観だけでもいいかという話も大学にきているが、教員のお手伝いなど、学校の雰囲気を感じるだけでも十分だと思う。そうすれば、実際にこの状況下で先生たちがどのような動きをしているのかが理解でき、将来教員になる人にとっていい勉強になると思う。ご迷惑おかけす

るが、よろしくお願ひしたい。

伊奈委員： まず、臨時休校時について。各家庭で独自の時間割を作ったり、企業からの配信サポートで勉強したりするなど、工夫して生活リズムが乱れないように頑張っていたと思う。体力づくりの課題のおかげで子どもたちが体を動かすことを意識して取り組むことができ、今よりも体を動かしていたと思う。しかし、大型連休があったことや、大型連休明けに学校からの宿題プリントが増えたことで、子どもたちのモチベーションが下がってしまった。

I C T面では、学校からeライブラリというクイズ形式の教育を受けることができよかつたという声もあつた一方で、W i - F i設備が整つていなかったり、兄弟で複数同時に用意ができなかつたりなど、いくつか環境に問題があるという意見もあつた。また、日常から多くのアプリに触れている子どもたちには内容が物足りなく、意欲がわからないという意見もあつた。

安城西部小学校では、6年生の社会の映像授業を試作し、期間限定で公開していた。西部小学校の子どもたちは久しぶりに先生の姿を見ることができて好評で、字幕もあり内容もわかりやすかつた。しかし、配信の安全性に疑問があることと、15分程度の動画に対して準備時間が多くかつたこともあり、一度限りだつた。

ある先生のご意見では、普段の授業から15分から20分程度の映像授業を使い、その後にはクラスの先生が補足授業を行うほうが効率がよい、初めに作成するのは大変だが、教科ごとの部会を活用したら、効率よく授業ができるようになると思うということだつた。普段の授業で見ている映像授業であれば、休校になつたとしても、子どもたちが違和感なく継続して勉強ができそうである。今は民間企業や通信教育でも映像授業を始めている。先生方の働き方改革のためにも、企業のものを使うことも得策だと思ふ。

次に家庭学習の面では、休校時の家庭のサポートに保護者から前向きな声も聞かれる一方で、共働きのご家庭の場合や、内容に保護者が対応できない場合、家庭学習の難しさも感じた。その結果、勉強の遅れの不安から登校できなくなつている子がいると聞く。休校前の学習の進捗状況が違ふためか、学校によつて登校の案内や宿題の量に開きがあり、不安がある保護者がいる。

他に、児童クラブでは密になつているという問題もある。共働きのご家庭のお子さんが自主登校教室に通いソーシャルディスタンスを保つて、友達ともあまり話さず、黙つて弁当を食べ、静かに頑張つていても、児童クラブの時間になると、狭い部屋の中で密にならざるを得ない状況に矛盾を感じた。ソーシャルディスタンスを重視するべきなら、早急に対応すべきだと思ふ。

続いて、学校再開時について。分散登校では各クラスの子どもの人数も約半分となり、座席の間隔を空けて座るため、子どもたちや先生の顔がしっかり見

えて、隣の子と話すことも難しいために、クラス全体が落ちついていたと思う。学習するという面だけに着目したら、理想的な環境だと思った。

子どもたちの意見では、久しぶりに学校に行けて嬉しいという声もある一方で、仲良しの友達が別の登校日で寂しい、新学期でよく知らない子が多いのにソーシャルディスタンスで話せないから友達づくりもできない、勉強だけなら今までのようにプリントでやればいいと思うから何のために学校に行くのか、という声もあり、子どもたちは心の教育を望んでいると感じた。また、学校を休むことに抵抗がなくなり、家で過ごしたいと思う子どもが増えたような気がする。

学校では、先生方が様々な工夫をしていて、今までにない留意事項も増えた。家で検温をするのを忘れてしまった子どもに検温することや、少しでも体調が悪い子には今までよりも早い段階で保健室への移動や帰宅準備が必要となり、授業も止まりがちなようである。可能であるなら、先生方の貴重な時間を子どもたちの未来のために使ってほしい。

GIGAスクール構想は考えることが山積みである。子どもたちの意見も聞くと、教科書の内容が全てタブレットでも見るできるようになり、宿題もテストもタブレットで自動採点や見直しの解説があると嬉しい、他には学校を休んでいる日も自宅で学校の授業を見ることができれば、インフルエンザで自宅待機の際に授業を見ることができると話していた。

タブレット内の解説ではわからない子どももいるとは思いますが、解説のみで済む子がいれば採点を含め先生方の負担も軽減されると思う。

先生方は生徒一人一人に対応しているのは承知しているが、もっと子どもと向き合ってほしいと思っている保護者も多いと思う。大人から見て問題がないように見える子どもも、実際は問題を抱えていることが多い。

今回の経験で素晴らしいお考えをお持ちの先生も多くいるはずである。先生方が一丸となって考えていただきたい。心の教育にとっても大切なさまざまな行事が次々となくなっているが、子どもたちは頑張って登校している。活用方法は無限だと思うので、子どもたちが楽しく学ぶために、大人が環境を整える必要があると思う。

コロナ対策や先生方の働き方改革も含めて、安城市全体で子どもたちを支えていただきたい。子どもの未来のない社会に大人の未来もない。子どもたちのために、よろしくお願ひしたい。

神谷市長：様々なご意見を4名の委員からいただいた。総括的にお話があれば、教育長からお願ひしたい。

杉山教育長：子どもたちや保護者の方々、教員には大変な思いをさせていると実感をしている。この前、子どもたちのために多くの団体や企業から消毒液とマ

スクの寄贈があり、その気持ちが嬉しかった。

話は変わるが、本市の喫緊の教育課題は不登校の問題であるということは前々から話をしてきた。ある校長から聞いた話だが、3カ月の臨時休校を明けて学校が再開するときの話である。当初、分散登校という形で実施をしていたが、その日に何カ月も顔を見なかった不登校の子どもが登校してきていて、大変驚いたという話を複数の中学校校長から聞いた。私は理由を聞いたが、校長たちは分かりませんと答えた。ただ、推測をするに、休校期間中は3か月あり、その休校期間は全ての子どもたちが休校なわけであり、後ろめたさも、何の気兼ねもなく、学校を休んでいる。そんな気持ちがどこかに働いたのではないかと、校長たちは話をしてくれました。

また、保護者からは、不登校であった子どもの表情が大変よくなったという話も聞いている。ただ、あれから2カ月弱が経ったので、今の状況は確認していない。

そういう状況の中でスタートした学校再開であるが、学校教育課長から東山中学校の例、あるいは安城西中学校の例、小学校では、梨の里小学校や二本木小学校、三河安城小学校のあまびえちゃんの例等、いくつかの取り組みの紹介があった。コロナを逆に教材として、心を耕すという試みに大変私は嬉しく思っている。ぜひ、水平展開していけたらと思う。

冒頭で申し上げたように、大変な思いをさせながらの授業再開であるが、子どもとともに、教員とともに、また、保護者とともに踏ん張っていきたいと思う。

神谷市長：ありがとうございます。皆さんからご意見いただきましたので、私からも、ご意見をお伺いした中で、あるいは自分なりに見聞きしたことも含めて話したいと思う。

まずは、教育委員の皆さんにおかれては、子どもたちと安城教育に対して関心をお持ちいただき、ありがとうございます。私たちは子どものことも心配しつつ、かつ、子どもたちが生活をしている各家庭のことも大変心配をしている。福祉の関係や、アパートマンション等にお住まいの方に対する家賃補助もしているのですが、実績がどのように推移しているかは関心を持っている。安城市にも生活が行き詰まってしまった人に対して、社会福祉協議会から最高金額20万円で、無利息で貸し付けをする制度がある。

家賃補助については基本的に3カ月分の家賃を補助しているが、コロナの関係で異常な状況下なので、延長して9カ月分の家賃を支給する制度もある。それらの貸付あるいは支援に関しては、かなりの数になってきている。

全国比較をすると、安城市が他の市と随分違うところは、生活保護の申請が伸びていないところである。前年と比較してもあまり変わっていない。新聞、

テレビなどでは、生活に行き詰まってしまい、生活保護の申請が増えて大変な状況にあると報道がされている。しかし、私たちの地域では、飲食などのサービス業が基幹産業ではなく、自動車産業をベースしたものづくりが基幹産業なので、打撃は大きかったが、回復をしてきている。

したがって、当面の生活が少し心配だが、何とかこの時期を乗り切れば、道は開けるのではないかと、という感覚で生活している方が多いのではないかと考えている。全国的に見ればこの地域の子どもたちは、個人差はあるかもしれないが、経済的には恵まれているのではないかと判断をしている。

企業が大変厳しいので、法人市民税の税収は多くは望めないだろうと思う。一方で、児童手当の加算や、学校給食の無償化、あるいは飲食店企業への支援などで相当な出費がかさんでいる。したがって、財政的に非常に厳しい状況に置かれてはいるが、厳しいながらも、長年の蓄えがあるので、その蓄えを取り崩していけば、2、3年はやりくりが可能であると考えている。厳しい状況だが、全国レベルで見れば、まだ頑張れる状況にあるので、新しい時代の子どもたちの学びや、健全育成に必要な投資に関しては、できるだけ優先的に配慮していきたいと考えている。市の行財政運営を預かる立場からすると、概況に関しては、そのような状況であるということをご承知おきいただきたいと思う。

コロナ感染症だが、特に若い人中心に出ている背景には、長期間の自粛が続いてきており、かなりのストレスが溜まっていたのではないかとと思われる。感染した理由というのは、恐らく様々だと思うが、夜の町が危ないということは間違いないと思う。中には夜の町に行ったこともないのに、間接的に感染してしまった方もいて、感染者に対して偏見が寄せられている。

こうした偏見があることから、心配だが診察を受けに行かないなど、そんな状況になると感染が知らないところで広まってしまう可能性がある。どういう状況にあっても、社会的な偏見を捨てて、温かい目で感染者を見守ってあげたいと思う。

それでは一通りご意見をいただいたので、その他について議題としたい。自由歓談ということでよろしくお願ひしたい。

杉山教育長：PCR検査の現状や、情報などをお知らせいただきたい。

学校教育課長：4月当初から教職員に関わるもの、また、子どもに関わるものでPCR検査まで至った案件数等をまとめた。教職員と子どもをあわせて、初めてPCR検査を受けたのは4月22日だった。7月28日現在で両方合わせまして7名の方がPCR検査を受けている。濃厚接触者という形でいずれも今のところ陰性ということで大事には至っていない。しかし、これと同数ぐらい、母が濃厚接触者に特定されて陰性だったというケース、家族が陰性で止まったケースが倍ぐらいある。



本当にすぐそこまで子どもたちのところには、コロナウイルスが迫っている。感染することもある程度想定しながら、子どもたちの心に訴えるような指導を各学校にお願いをしている。

神谷市長：それに関して、医療代表の近藤委員に伺いたい。PCR検査を受けられる方が増えてきたと思うが、体制が随分変わってきたからなのか。現在、どのような状況なのか。

近藤委員：コロナに感染しているかもしれないから、PCR検査を受けたいという人たちが保健所に直接電話するというシステムがある。受診した各医者が判断をして、受診者に紹介状を渡して医者が直接保健所に電話をして、PCR検査を行うという方法が一般的になっている。そのような人が週に2、3人いる。症状が強い人は普通の診療所には来ない。

また、外国に行かなければならない人たちが、PCR検査の証明書が必要になる。そういう検査依頼の人たちは基本的には公的などころでは検査を行わないで、有料にはなるが、企業の中で検査をしているのではないかと思う。

安城市も東京の医師会でやっているように、センターを設けて、ここに行けばPCR検査を行えるという環境を、本来なら作るべきだと思う。

神谷市長：抗原抗体検査というのはPCR検査よりも正確性は劣ると聞いたがそうなのか。

近藤委員：データで見るとそのようである。ただ、抗原抗体検査を最初に行い、症状とペアリングをして、PCR検査をするかどうかを決めた方がいいのではないかと考えている。専門家の人たちの意見は統一しないそうだが。

神谷市長：これからそういった検査を必要とする人が増えてくると思うので、私たちも増加してくるであろうということを前提に、保健体制としてどうするかを考えていきたいと思う。

## 第5 事務連絡

## 第6 閉会

閉 会 午後4時10分